

### 石丁場の整備状況は

#### 答 利活用の整備はしていない



藤井 廣明 議員

#### 石丁場の保存について

**問** 文化政策の中で石丁場跡、築城石の位置づけは。

**答** 当町の歴史の上で貴重な遺産であり、重要な文化財と位置づけている。文化財保護審議会によって「東伊豆町の築城石」という書物を出している。

**問** 10年ほど前までは当町の調査研究が他町より進んでいたが、このこと

る遅れをとっているが。

**答** 県や静岡大学チームによる調査と、町民有志のNPO法人が文化祭で紹介したり、大川区で発見された文献を町の文化財に指定している。

**問** 町中の石丁場跡所在箇所と整備状況は。

**答** 町内各地域に存在している。「大川の細久保、谷戸ノ入地区」「稲取愛宕山地区」「稲取本林（ほんばやし）、向山地区」の3箇所は多くの築城石がある。整備状況は草刈や清掃は行われたが、町による利活用を目的とした整備は行われていない。

**問** 今後、石の文化をどう継承し、発信していくのか。

**答** まず文化財保護法に基づき、包蔵地として指定を考え、全国に発信することを目指している。

**問** これだけまとまっていれば石丁場跡があるところは他になく、又、町内いたる所に築城石が残され、見られる町はない。石を巡る散策コースや案内看板を作っては。

**答** 色々と努力していくが、この件は地主さん、民間とうまくやっていくのが第一だ。

**問** お石曳きを東京でやって見る考えは。

**答** 以前やったことがあるが、経費が掛かりすぎて取り止めた事情がある。

### 休耕農地活用とオリーブの植栽について

**問** 当町の休耕農地の面積、現況は。

**答** 耕地面積258ヘクタールに対し、52・5ヘクタールの遊休農地があり、その割合は20・3%になる。耕作者の高齢化や担い手不足により増加している。

**問** 休耕農地は観光で生きている町として、景観上も問題があると思うが。

**答** 荒廃農地が増えている。



手入れされた畑は美しい

くことで、景観も含めた環境の悪化が懸念される。

**問** オリーブによる町づくりに取り組む考えは。

**答** 平成26年2月から「東急電鉄」「伊豆急ホールディングス」と協定を結び、オリーブによる地域活性化のため栽培と普及に努めてきた。地域おこし協力隊1名を雇い、伊豆急の子会社に出向させている。町としても企業とタイアップして「オリーブ未来プロジェクト」の名のもと、オリーブによる町づくりに取り組んでいる。

**問** 耕作されないミカン畑はあつという間にツタ類に覆われる。オリーブを植え、美しい景観と共に、それを産業として生かしていくべきでは。

**答** 成果を見た中で、簡単なオリーブ搾油機などを考えていいと思う。

### 既存の農林水産物店への経営圧迫は

#### 答 経営を圧迫するまでには至らない



内山 慎一 議員

#### 稲取漁港直売所整備について

**問** 既存の農林水産物店への経営圧迫は。またその保護は。

**答** 観光客が対象で、地域の農林水産物の販売・経営を圧迫するまでには至らないと考える。影響があれば商工会を通して行う。

**問** 補助金ありきの事業で、計画が後付けでずさんではないか。

**答** 産業団体連絡会などからの要望があり、町でも「第5次総合計画後期」に明確にうたっている。運営計画・販売計画は伊豆漁協・伊豆太陽農協で検討した内容で、さまざまな計画にはあたらない。

**問** 計画の規模内容（売り場100坪）で観光客が呼び込めるのか。また、地域間競争に勝てるのか。

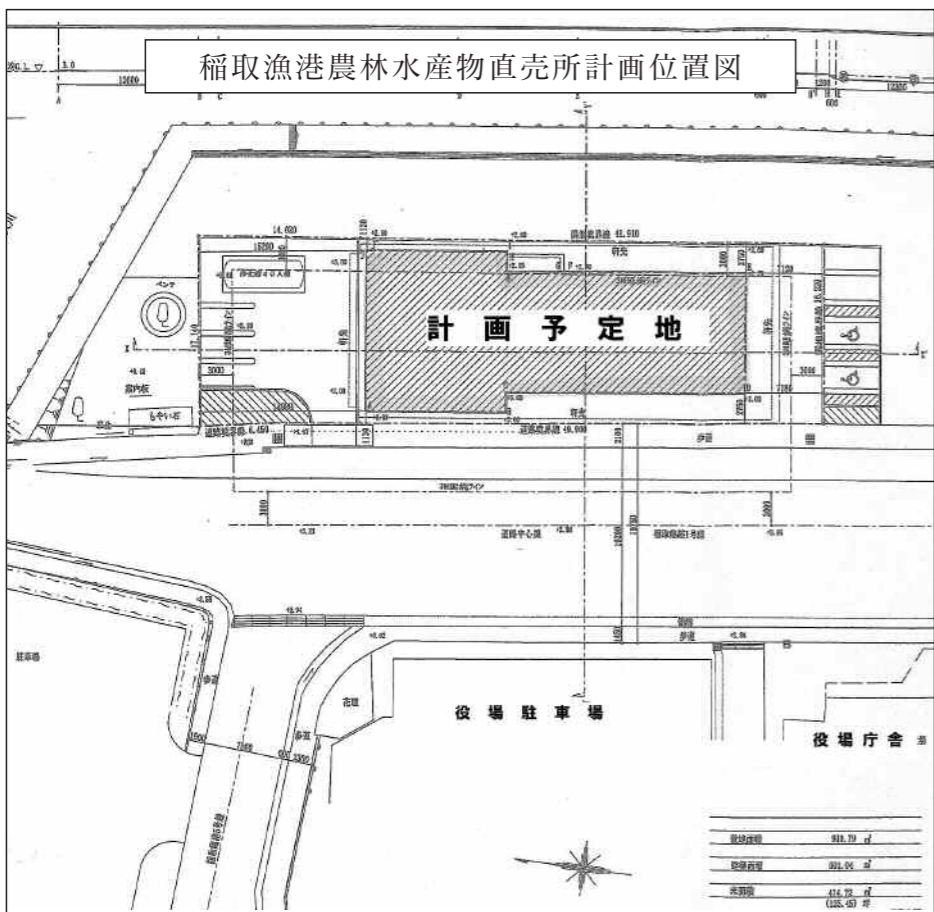
**答** この事業は、国道からの人や車の流れを呼び込む起爆剤で、他地域との競争をすることを考えてはならない。東伊豆町を広く知ってもらうことを目標としている。

**問** 港湾で津波や高波の心配は。

**答** 県では、地震発生頻

度が高いL1津波では、最大浸水2メートル、地震発生頻度が少ないが大きな被害をもたらすL2津波では最大浸水7メートルが想定されている。高波

は気象条件によっては被害発生心配があると考えるが、早期の避難を徹底したい。



議会 全員協議会 で示された資料